

## 日本在住ベトナム人日本語学習者の聞き返しに関する研究：使用に影響を与える要因の解明

ドー ビッ ゴック

<https://hdl.handle.net/2324/7363902>

---

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（学術）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏 名 : DO BICH NGOC

論文名 : 日本在住ベトナム人日本語学習者の聞き返しに関する研究  
-使用に影響を与える要因の解明-

区 分 : 甲

## 論文内容の要旨

近年、急増しているベトナム人日本語学習者は聴解や発音に課題を抱えており（中山、2017）、日本人とベトナム人の企業内コミュニケーションにおいて問題がよく発生している（小西、2016）。特に、母語話者との接触機会が少ない技能実習生は、日本語使用に困難を抱え、その対応に苦慮している（梶谷、2023）。このような状況において、聞き返しは聴解問題を解決する手段として重要な方略であり（尾崎 1992、2001）、従来の聞き返しに関する研究は、学習者の聴解に問題があるという観点から横断的に行われてきた。しかし、従来、聞き返し研究が聴解問題の解決手段という観点から行われてきたにも関わらず、ベトナム人を対象とした研究はほとんどなされていない。また、日本語能力以外の要因が聞き返しに与える具体的な影響についても、従来の横断的データによる分析では十分に解明されてきていない。

このため、本研究は、初来日のベトナム人日本語学習者 4 名を対象に、日本語母語話者との接触場面における自然発話データをもとに、聞き返しの使用実態とその影響要因を縦断的に解明することを目的とした。この解明において、聞き返しを母語話者とのインタラクティブな会話方略であると捉え、第二言語社会化論（相手との相互作用を通じて言語、文化、コミュニケーション能力の上達を理解するための理論的枠組み）を用いた分析・考察を行う。

この解明のために 3 つの研究課題を設定した。1 つ目の課題は、来日前のベトナム人日本語学習者は、どのような聞き返しストラテジーを使用するのか、2 つ目の課題は、来日後のベトナム人日本語学習者は、どのような聞き返しストラテジーを使用するのか、3 つ目の課題は、ベトナム人日本語学習者が使用する聞き返しストラテジーに影響を与える要因は何かである。

本研究は 6 章で構成される。第 1 章では、ベトナム人日本語学習者の現状を背景として概観し、本研究の目的、意義、用語定義などを述べた。第 2 章では、先行研究について概観し、研究課題の抽出を行った。第 3 章では、本研究で使用する理論的枠組みと研究方法について記載した。第 4 章では、1 つ目と 2 つ目の研究課題に関する調査と分析の結果を示した。第 5 章では、3 つ目の研究課題に関する調査と分析の結果を記述した。第 6 章では、得られた結果を基に、本研究の総合的考察、結論、および意義をまとめた。

まず、1 つ目と 2 つ目の課題に対しては、ベトナム人日本語学習者 4 名と日本語母語話者 4 名の自然発話データを用い、使用回数と頻度を分析した。その結果、来日前は聞き返しの頻度が高かったが、来日後 3 ヶ月で一時的に減少し、その後再び増加する傾向が確認された。また、本研究で「単純エコー型（説明）」と名付けた聞き返しは、先行研究では相手に説明を要求する意図が伝わりにくく、聞き返しとして認められていなかった。しかし、本研究では、この聞き返しが聴解問題を解決するために有効な方略として成功していることが確認された。さらに、初級学習者が多用する「分

かりません」「知りません」といった表現に関しても、丁寧語や理解できない部分を付加する形で、中級レベルの対象者が聞き返しとして使用する現象も観察された。また、質的調査からは、来日前は聞き返しを躊躇していたが、来日後は能動的に聞き返しを行い、その結果、会話内容の深掘りや「言い換え型」の聞き返しが増加したことが明らかになった。特に、緊急時や困難な状況では第三者に助けを求め、問題を解決しようとする姿勢が顕著に確認された。

続く3つ目の課題では、聞き返しの使用に影響する要因に焦点を当てた分析を行った。その結果、会話相手、話題、学習環境、ピア・プレッシャー、時間の制限といった外的要因によって聞き返しの方略が変わるという結果が得られた。また、上記の外的要因に加えて、自己調整学習、学習意欲、日本語能力、個人の性格、感覚的な判断、自信の有無、積極性の高まりといった内的要因が聞き返しの使用の有無や頻度、種類などに影響を与えたことが確認された。

以上3つの課題の結果を踏まえ、第二言語社会化論の視点から分析した結果、聞き返しは単に聴解問題を解決する手段に留まらず、会話を継続させ、発展させるための重要な相互方略であり、緊急時や困難な状況においては、周囲の人々を巻き込む役割を果たすことが明らかになった。この結果は、今後の日本語指導において、聞き返しを重視した指導法の必要性を支持するものとなった。続いて、聞き返しの使用に影響を与える要因のうち、外的要因として確認された学習環境、ピア・プレッシャー、時間の制限、さらに、内的要因として確認された自己調整学習、学習意欲、感覚的な判断、自信の有無、積極性の高まりを提示した点は本研究の新たな知見である。聞き返しの使用が多次元的な要因に影響されているというこの知見は、聞き返し研究における理論的枠組みの拡張に繋がる可能性を示唆している。